
いつかの、あの頃...

美空遊衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつかの、あの頃…

【Nコード】

N6216T

【作者名】

美空遊衣

【あらすじ】

人を愛すること

人を信じること

人と感情分かち合うこと…

たくさんのことを教えてくれたのは
貴方でした。

春

「あゝ

又遅刻だあ」

と、

遅刻するのが明確なので

萎えながら学校に向かっているのは

私、ゆうてんじ祐天寺 ことみ小十未。

湛崎中学校に通う

中学2年生。

クラスは1組。

良く学校を遅刻する

遅刻魔だ。

「ようっ！

又遅刻かあ？」

と、

私の肩をポンッと

タッチしながら言ってきたのは

遅刻魔仲間の神宮寺 じんぐうじ利季 りき。

私と同じ2年1組。

サッカー部に所属してる次期部長さん。

利季とは遅刻魔同志
とゆるいことで仲良くなった。

「まあ利季もだよねえ」

「まあなあ〜」

キンコンカンコン

「あーあーチャイム鳴っちゃったねえ？利季さん」

「そだなあ？まあいつものこと。大丈夫、歩いて行こう！」

「おー！」

と、

いつもこんな感じで
会話してる。

ガラガラ

「おっはよーございまあすっー!!」

利季が教室中に響くくらいの声で言った。

「又遅刻かよお!!」

相変わらずだなあ神宮寺夫妻はあ」

クラスの男子が言った。

「まあなあ」

「利季とは付き合ってないけどねえ」

「おい!! 2人とも! 何度言ったらちゃんと学校に来るんだっ!
お前等には呆れたもんだ」

「まあまあ先生。

俺等には構わず授業再開してくださいよ。」

「あーあ本当に呆れたもんだ。次からはちゃんと来いよ。」

「「はい」」

キンコーンカーンコーン

「今日もやっと終わりかぁ!!」

利季が言った。

「でも利季生徒会あるよ？それに部活もお…」
と、私。

「はっ!!」
「そーだったぁ…。」

「生徒会行くよぉ？」
先輩に怒られるよ早く行かないと」

「そだなぁ、行きますか」

そして私達は生徒会室へ向かった。

「ちいーつす」

「こんにちはあ」

利季と私が言った。

「おお！！次期部長よ！

お前は次期会長でもあるからな！
しつかり遅刻直してくれよ？」

と、現会長の
ただみや
多田宮 かずき 一樹先輩が言った。

「まだそんな事言ってるのかあ？
俺会長、小十未に譲ろうと思ってんで
絶対やりませんよ？」

「んなつ！！」

そ、そんな勝手なことは
許さねえーぞ！！」

「そーだよ！

なんで私に譲るの？」

私も割り込んだ。

「えー…、だつてよお

俺部長も会長も一緒にやれねえしよお。

そもそも会長はやる気無かつたしさ、

だから一番身近な小十未に譲ろうかと…。」

「まあまあ利季くん！

自信を持ちたまえ！

君は優秀だから両方やりこなせるさっ！」

「一樹先輩…。」

「そーだよんなよ利季！

私応援するし、

なんなら副やつて補助もするしさ！

マネージャーにもなつてやる！」

「小十未…。

でもお前、マネージャーなんてやつたら

オーデ今みたいにポンポン受けられなくなるぞ？」

「大丈夫！

合間縫つて頑張るから」

私は声優になるために

暇さえあればオーディションを受けている。

だから部活は何処にも所属してない。

「んー。。」

「みんなの好意に少し
甘えたらどーだ？」

と、

呆れ顔をしながら利季に言ったのは
副会長の3年3組^{ふじみや}富士宮 俊樹^{としき}先輩。

「俊樹先輩！いつから居たんすか？」

「ついさっき来た。
んでどーすんだよ？」

「えと、じゃー
みんなの好意に甘えます…。。」

「ほいじゃ次期会長決定なっ！。！」

一樹先輩が

満面の笑みで言った。

「「こんにちは」」

次々と生徒会メンバーが
集まった。

「今日はここまで！
みんな帰っていいよー！！」

「「お疲れさんです」」

生徒会は終わり
みんな一斉に部活や帰宅に走った。

「それじゃー利季、
私さき帰るね。部活頑張って！」

「おうつ！

お疲れさん。

小十未は俊樹先輩と帰るのか？」

「え、うん！

なんで？いつもの事じゃん」

「え？い、嫌別になんでもない」

「そお？」

『おーい！小十未い！！帰るぞっ』

俊樹先輩が叫んだ。

「はい！！

じゃーばいばい又明日ね！」

「おうつ！」

『先輩待つてよおー！』

『お前おせーんだよ』

・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6216t/>

いつかの、あの頃...

2011年10月6日09時50分発行